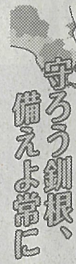


冬の防災対策再確認

釧路 夜間極寒避難所体験



釧路市防災士ネット

ワーク(小野信一代表)

定した宿泊型の「第3回夜間極寒避難所体験 in 釧路」を指定避難施設の大成寺(釧路市米町2)で開いた。参加した35人の地域住民が体験や講演を通じ、釧路の冬の防災対策を再確認した。

(長谷紅瑠美)

災害時に寒さから自らの身を守るための知識、技術を身に付けてもらうことが大きな狙い。電気や水道などのライフラインは使用できず、暖房設備はポータブルストーブ2台のみで行った。

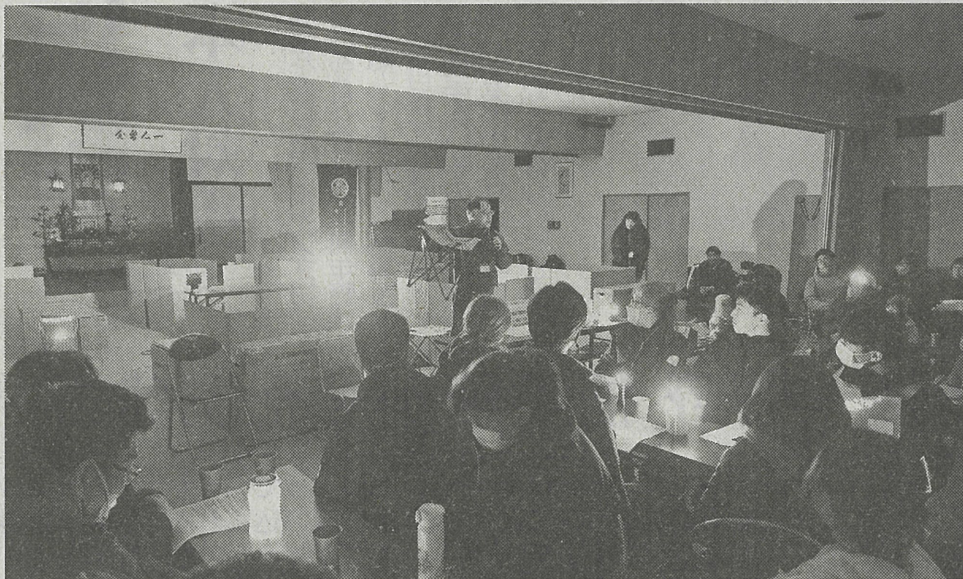
今回は1日午後3時〜2日午前9時にかけて実施した。1日目は防災や減災、被災地の体験談などをテーマに4人の講師が盛りだくさんの内容でミニ講演会を開いた。夕食はアルファ米

とレスキューキッチンによる豚汁が振る舞われ、参加者のうち19人が宿泊。午前3時ごろ最低気温5度だった室内では、寒さで何度も目を覚ましたり、慣れない環境で寝付けない人も少なくなかったという。

2日目はワークシヨップが行われ、夜間の体験を振り返った。参加した釧路公立大学3年の美本涼太さんは「暖のありがたみを感じた。想像以上に寒くて寝られなかった。防災準備の見

直しや対策を練る必要がある。

る」と話した。小野代表は「大成寺の協力があってこそ開催、本当にありがたい。学びは個人のものではないので、その知識を周りに伝えながら、地域の防災意識を高めてほしい」と語った。



大成寺で行われた講演の様子